

## 第12回講演会の報告

日時：平成24年4月14日(土) 14~16時  
場所：日本水道会館 会議室 (参加者数72人)  
講演：「水栓の変遷」  
講師：社団法人日本バルブ工業会  
(TOTO(株)お客様商品技術担当部長)  
駒谷直樹先生



今回の講演では、蛇口の変遷、蛇口のおもちゃ話、蛇口の最近の取組事例についてご講演頂きました。

蛇口という名の由来は諸説あるようで、明治時代に使われた公共栓の柱部分を「蛇腹」と呼んでいたことから吐水口を「蛇口」と呼ぶ説。また、公共栓上部の吐水口が「竜」の形になっており、竜を蛇と混同してしまい「蛇口」と呼ぶ説。蛇口という何気ない用語の中に、蛇口の歴史を垣間見ることが出来ました。

1854年、ペリー提督が蛇口の組込まれた蒸気機関車を江戸幕府に贈呈したという記録が渡来時期を示す最も古い記録であり、1877年に京都府勧業工業伏木製作所で国産初のバルブが製作されました。

1887年、近代水道創設時にはライオンや竜の口から水が出る公共栓を利用していたとのこと。公共栓の吐水口には水の神様を表すことが多く、ヨーロッパではライオン、中国や日本では竜を神聖なものとして、蛇口の形として採

用したとご説明頂きました。

明治30年代、屋内専用栓を設置し始めましたが、大部分は輸入品に頼っており、昭和初期から、国内メーカーが都市ごとの独自の仕様品を製造し始めました。第二次世界大戦中、戦後、資材が欠乏する中で、蛇口の製造を続け、昭和30年代前半にはハンドシャワー、1962年には温度調節が容易な混合栓を製造し始め、今日の蛇口に至るとご講演頂きました。

現在の蛇口のキーワードとしては、「地球に優しいエコ商品」、「便利で快適な機能」が挙げられ、時代や環境の変化と共に、顧客のニーズを満足するために日々開発を進めていらっしゃるそうです。「地球に優しいエコ商品」の事例としてエコシングルという商品をご紹介頂き、レバー中央部まで水が出て、水と湯の境にクリック感を作ることにより、無意識によるエネルギーの無駄な消費を防ぐことができるとご報告頂きました。

ご講演を通して、水道事業の顧客である需要者と接するバルブ工業会の皆様の不断の努力を感じることができました。

## 定例幹事会の報告

日時：平成24年6月9日(土) 14時~16時  
場所：日本水道会館 (会議室)  
議題：講演集の作成準備、親水道百選の検討他

## 今年度の会員集会の予定

|               |         |
|---------------|---------|
| 平成24年6月23日(土) | 総会、特別講演 |
| 平成24年9月29日(土) | 講演会     |
| 平成25年1月予定     | 講演会     |

## 編集後記

水を語る会が設立されて早4年経ちました。引き続き、会員の皆様が自由に交流できる場を提供できるように努めて参ります。ご意見、ご感想等御座いましたら、お気軽にご連絡下さい。  
<http://www.dab.hi-ho.ne.jp/mizu-o-katarukai/>